

国民体育大会参加基準アーチェリー競技変更案日本体育協会ヒアリング結果報告

2015年2月23日(月)

競技部 国体担当

1、平成28年より隔年に成年枠と少年枠を下記の様に入れ替える

種別及び参加人員(現在) H29年・31年・33年・35年・37年

種別	監督	選手	参加都道府県	小計(選手計)	合計(選手・監督計)
成年男子	52名 1県2名以内	3	24	72	280
成年女子		3	24	72	
少年男子		3	14	42	
少年女子		3	14	42	

種別及び参加人員 H28年・30年・32年34年・36年

種別	監督	選手	参加都道府県	小計(選手計)	合計(選手・監督計)
成年男子	52名 1県2名以内	3	14	42	280
成年女子		3	14	42	
少年男子		3	24	72	
少年女子		3	24	72	

※ 監督配置数の調整方法及び帯同コーチ制度は今までどおり

[回答]

- ・概ね問題ない12月までに文章で日本体育協会に提出すれば、H28年より実施可能。
- ・成年枠と少年枠の隔年の入れ替えは可能
- ・入れ替えパターンが他に考えられないか。

成年枠24 ←→ 少年枠14 入れ替えに差がありすぎるのではないか。

(例) ハンドボールでは、成年男子24・少年男子14

成年女子14・少年女子24

隔年でそれぞれ男女を入れ替えて実施されている。

○ 変更手続きについて

- ・全ア連 → 2015年度6月総会承認 → 開催県への確認、調整で2ヶ月余 → 和歌山国体までに決定 → 日体協へ変更申請

日体協 → 大会要項 12月の国体委員会までに提出で、変更は可能である。

※2016年度岩手国体から実施可能

※ 参考柔道競技では少年成年の種別を取り払い1本化に予定されている。

2、天皇杯・皇后杯ポイントについて

現ルールでのポイント制での順位決めは公平性を欠くので、「5位～8位は順位を同順位として7、5ポイントを与える。」に変更できないか。

〔回答〕

- ・ 順位は都道府県対抗の意味合いからできるだけ現在の方法が良い。
- ・ 現行が望ましいとのとの確認に、そこまでとは言えないとの返答であった。
- ・ 実際の試合の順位付け事例を含めて分かり易く纏めたものが欲しいが、提案を必ず受け入れるかは難しいとの返答であった。

3、ミニ国体に参加していない各都道府県の監督が本国体に参加しても問題はないか。

〔回答〕

- ・ ミニ国体の参加監督は本国体に出ることは重要ではあるが、NF で決められることから良い。

4、東京五輪に MIX 戦が取り入れられるが、参加人数の増加は認められないか？

競技ではなく、デモンストレーションとして実施の場合、参加人数外となるか。

〔回答〕

- ・ イベント事業としての開催は可能。（競技日程の合間の時間を利用）
- ・ イベント事業経費は連盟負担、参加選手の経費についても個人及び連盟負担である。
- ・ 宿泊施設の問題もある。
- ・ ラグビーの女子種目をイベント事業として、国の補助金を利用して実施した例もある。イベント事業で実施（去年は長崎の近県：九州から参加）今年度から正式種目になる。NF の予算で参加者の旅費・宿泊費を負担（国からの補助金）
- ・ MIX については、他種目においても国際的な流れもあり、国体についても今後検討されることも考えられるかもしれない。

<参考>

- ・ 正式種目でないなら意味がないのではないか。
- ・ MIX の強化費が出ないか調べてみてはどうか。
- ・ 現在の枠組みの参加人数で MIX 導入が出来ないか再検討してみてはどうか。
- ・ MIX 戦についてのやり取りの中で、一部の表現で参加枠増 MIX 戦追加原案を出してはとの発言もあったが、最終的に出すことには至らなかった。

PS 総合開会式の参加についての問い合わせがありましたが、日本体育協会からは都道府県体育協会にこの件で連絡することはないとのことです。都道府県体育協会が当該参加競技宛に依頼をされているのが現実です。